



BEA WebLogic jCOM

インストールガイド

WebLogic jCOM バージョン 6.1
マニュアルの日付：2001 年 11 月 1 日

著作権

Copyright © 2001 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Collaborate、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic E-Business Platform、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Process Integrator、BEA WebLogic Server、E-Business Control Center、How Business Becomes E-Business、Liquid Data、Operating System for the Internet、および Portal FrameWork は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

目次

1. WebLogic jCOM のインストール

WebLogic jCOM のインストールの準備	1-1
WebLogic jCOM のインストール	1-5
GUI モードによる WebLogic jCOM のインストール.....	1-5
UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic jCOM のインストール	1-6
WebLogic jCOM のアンインストール	1-8



1 WebLogic jCOM のインストール

以下の節では、WebLogic jCOM のインストールについて説明します。

- WebLogic jCOM のインストールの準備
- WebLogic jCOM のインストール
- WebLogic jCOM のアンインストール

WebLogic jCOM のインストールの準備

WebLogic jCOM ブリッジは、Java™ 2 Platform, Enterprise Edition 1.3(JVM 1.3.0 をサポートする任意のプラットフォーム) 上で動作します。Component Object Model (COM) クライアントと WebLogic jCOM ツールは、Microsoft Windows プラットフォーム (Windows 9x/ME/NT/2000) 上で実行する必要があります。単一マシン インストールでは、COM クライアント マシンをサーバおよびブリッジ マシンとして使用することもできます。

注意： インストーラによってインストールされた WebLogic jCOM サンプルは、WebLogic jCOM ブリッジと WebLogic Server が同じマシンに存在していることを前提としています。

インストール オプション

WebLogic jCOM インストーラには、以下の 4 つのインストール オプションが用意されています。

- 単一マシン インストール :Distributed COM (DCOM) アーリー バインドおよびレイト バインド実装に必要な最小限のファイルを単一のマシンにインストールします。

- クライアント インストール (Windows のみ) : 別個のクライアント マシンとサーバ マシンを使用する DCOM アーリー バインドおよびレイト バインドに必要な最小限のファイルをクライアント マシンにインストールします。
- サーバ インストール: 別個のクライアント マシンとサーバ マシンを使用する DCOM アーリー バインドおよびレイト バインドに必要な最小限のファイルをサーバ マシンにインストールします。サーバ マシンへのサーバ インストールは、ゼロ クライアント インストールにも使用できます。
- フル インストール : WebLogic jCOM キット全体をインストールします。クライアント マシンへのフル インストールは、ネイティブ モード実装に使用されます。

これらの実装の詳細とこれらを使用する理由については、『[WebLogic jCOM ユーザーズガイド](#)』を参照してください。

インストーラは、選択したインストール オプションに応じて、異なる WebLogic jCOM コンポーネントをインストールします。表 1-1 を参照してください。

表 1-1 WebLogic jCOM インストーラによってインストールされるコンポーネント

コンポーネント	機能	単一 マシン	クラ イ ア ン ト	サーバ	フル
jcom.jar	WebLogic jCOM ランタイムブリッジ。	√		√	√
jcom_reduced_logging.jar	ログ機能が無効化される。	√		√	√
checkconfig.exe	WebLogic jCOM のコンフィグレーション設定をチェックする。詳細を参照するには、 <code>checkconfig /?</code> を使用する。	√	√	√	√
com2java.exe	COM 型ライブラリを解析し、Java から COM インタフェースと COM クラスにアクセスするための Java ファイルを生成する。				√

コンポーネント	機能	単一 マシン	クラ イア ント	サーバ	フル
com2javacmd.exe	com2java のコマンドラインバージョン。				√
java2com.bat	Java クラスを解析し、COM IDL ファイルとマーシャリングコードを生成する。	√		√	√
jsafe.jar	認証で使用する暗号化 / 解読方法を含むライブラリ。	√		√	√
JintMk.dll	WebLogic jCOM Moniker。jCOM の COM と Java の通信をサポートするために使用する。	√	√		√
ntvauth.dll	Java クライアントを SWindows で実行するときに現在のログイン ID を取り出すために WebLogic jCOM によってオプションで使用されるネイティブコード。				√
ntvinv.dll	Java クライアントを MS Windows で実行するときに COM オブジェクトにアクセスするために WebLogic jCOM によってオプションで使用されるネイティブコード。				√
ntvocx.dll	Java GUI フレームに COM コントロールを表示するために WebLogic jCOM によってオプションで使用されるネイティブコード。				√

1 WebLogic jCOM のインストール

コンポーネント	機能	単一 マシン	クラ イア ント	サーバ	フル
regprogid.exe	COM ProgId を JVM 名と Java クラスにマップする。通常は必要ないが、Internet Explorer で JavaScript を使用して DCOM を介して Java オブジェクトにアクセスするような場合に役立つ。				√
ocxhost.exe	GUI コンテナでホストを必要とする COM コントロールにアクセスする。				√
regjvm.exe	COM からアクセス可能な Java 仮想マシンの登録 / 登録解除を行う。	√	√		√
regjvmcmd.exe	regjvm のコマンドラインバージョン。	√	√		√
regtlb.exe	WebLogic jCOM の java2com ツールによって生成された IDL ファイルをコンパイルすることによって生成された型ライブラリの登録 / 登録解除を行う。	√	√		√
setdllhost.exe	DLL にホストされる COM コンポーネントの代理をコンフィグレーションして、DCOM を介してそれらにアクセスできるようにする。				√
サンプル	Quick Start、Zero Client、Early Bound、Late Bound、および Migration from COM サンプル用のソースコードとサポートファイル。	√	√	√	√

コンポーネント	機能	単一 マシン	クラ イア ント	サーバ	フル
ユーザドキュメント	PDF 形式のユーザズガイド、インストールガイド、およびリファレンス。	√	√	√	√

WebLogic jCOM のインストール

WebLogic jCOM には、2 種類のインストーラが付属しています。1 つは WebLogic jCOM を Windows マシンにインストールするためのもので、もう 1 つは WebLogic jCOM を UNIX マシンにインストールするためのものです。

注意： インストーラによってインストールされる WebLogic jCOM サンプルは、デフォルトのインストール ディレクトリ、`c:\bea\wlserver6.1\jcom` が使用されることを前提にしています。

GUI モードによる WebLogic jCOM のインストール

WebLogic jCOM のインストール手順は次のとおりです。

1. インストーラを実行します。

`jCOM610win.exe` (Windows の場合)

`jcom610unix.bin` (UNIX の場合)

注意： WebLogic jCOM のデフォルト インストール ディレクトリは、`{WLS 6.1 Install Directory}\jCOM` です。この機能を UNIX プラットフォームで正常に使用するには、WebLogic jCOM をインストールするユーザが WebLogic Server をインストールしたのと同じユーザとしてログインする必要があります。

UNIX 用のインストーラを実行するには、インストーラが存在する UNIX コマンド プロンプトで、`sh ./jcom610-unix.bin` と入力します。

2. インストーラの指示に従います。[Choose Product Features] ウィンドウに進んだら、希望のインストール オプションを選択します。図 1-1 を参照してください。

図 1-1 [Choose Product Features] ウィンドウ



UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic jCOM のインストール

WebLogic jCOM 用のコンソール モード インストール プロセスを開始するには、インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を呼び出します。

```
sh ./jcom610-unix.bin -i console
```

コンソールモード インストール プロセスを完了するには、各セクションで選択する項目の番号を入力するか、または〔Enter〕を押してデフォルトを受け付け、指示に応答します。インストール プロセスを中止するには、指示に対して quit を入力します。選択した内容を確認したり変更したりするには、指示に対して back を入力します。

セクション	実行するアクション
[Introduction]	インストールを続行するには〔Enter〕を押す。
[License Agreement]	<p>BEA ソフトウェア使用許諾契約を読み、契約の条件に同意するか拒否するかを、それぞれ Y または N を入力することで示す。インストールを続行するには、Y を入力して、ライセンス契約の条件に同意することを示す必要がある。N を入力すると、以下の警告が表示される。</p> <p>Warning: If you do not accept the licensing terms you will not be allowed to continue with the install.</p> <p>DO YOU AGREE WITH THE TERMS OF THE LICENSE?(Y/N):</p> <p>N を入力すると、インストール プロセスは中断する。</p>
[Choose Product Features]	<p>対象システムにインストールするソフトウェアを選択する。以下のオプションが表示される。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Single Machine■ Full Install■ Server <ol style="list-style-type: none">1. DCOM コンフィグレーション用のファイルを単一のマシンにインストールするには、1 を入力するか、または〔Enter〕を押す。2. jCOM キット全体をインストールするには、2 を入力する。3. DCOM コンフィグレーション用のファイルをサーバマシンにインストールするには、3 を入力する。 <p>指示が表示されたら、インストールするファイルを示す番号を入力する。</p> <p>注意： UNIX システムの場合はクライアント オプションは存在しない。</p>

セクション	実行するアクション
[Choose jCOM Home Directory]	<p>WebLogic jCOM ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定する。デフォルトの製品ディレクトリ (wlserver6.1/jcom) を選択するか、新しい製品ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、インストール プログラムは自動的にディレクトリを作成する。</p> <p>初期デフォルトでは、製品ディレクトリは、前のセクションで指定した BEA 6.1 ディレクトリの下にインストールされる。デフォルトを受け入れるには、[Enter] を押す。</p> <p>絶対パス名で製品ディレクトリを指定する。たとえば、次のように指定する。</p> <pre>/home3/weblogicserver6.1/jcom.</pre> <p>最初に指示で [Enter] を押した場合は、デフォルトの製品ディレクトリ (この例では、 <pre>/bea/wlserver6.1/jcom</pre>) を受け付ける。</p>
[Pre-Installation Summary]	<p>選択内容のまとめが表示される。</p> <p>インストールを続行するには [Enter] を押す。</p>
[Installing]	<p>このウィンドウではユーザ入力は不要。インストール プログラムは、ユーザが指定した製品ディレクトリに WebLogic jCOM をインストールする。</p>
[Install Complete]	<p>[Enter] を押して、インストール プログラムを終了する。</p>

WebLogic jCOM のアンインストール

WebLogic jCOM ブリッジをアンインストールする場合、そのブリッジに関連付けられている BEA ホーム ディレクトリ (c:\bea\wlserver6.1 など) は削除されませんが、インストール プログラムによってインストールされた WebLogic

jCOM コンポーネントはすべて削除されます。また、次の場合を除き、WebLogic jCOM ブリッジに関連付けられている製品ディレクトリも削除されません。

製品ディレクトリに、ユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーション ファイルがある場合 — アンインストールではユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーション ファイルは削除されません。

WebLogic jCOM のアンインストール手順は次のとおりです。

1. アンインストーラを実行します。

WebLogic jCOM 6.1 Uninstaller.exe (Windows の場合)

WebLogic_jCOM_6.1_Uninstaller (UNIX の場合)

UNIX 用のアンインストーラを実行するには、アンインストーラが存在する UNIX コマンド プロンプトで、`sh ./WebLogic_jCOM_6.1_Uninstaller` と入力します。

2. アンインストーラの指示に従います。

